

仮設で車を共同利用

買ひ物や通院も手軽に

石巻・流留 入居者の対話促す

石巻市流留の仮設住宅で、入居者有志が車を管理し、共同利用するカーシェアリングの取り組みが始まった。東日本大震災でマイカーを失った被災者が協力し、買い物や通院などで手軽に利用できる生活の足を確保する試み。入居者同士が会話をきっかけを提供し、「コミュニティづくり」につなげる狙いもある。

取り組みは、日本カー用は無料で、燃料代なしシェアリング協会（神戸）が支援企業と連携して実現。約100戸のうち7世帯8人が参加している。

京都府の物流会社が提供した乗用車1台で今月中旬まで試験運用して課題を確認した後、本格実施に移る。参加する入居者をさらに募っている。

車は仮設住宅の駐車スペースに止めておき、参加登録した入居者が希望日時を集会所に備え付けたノートに書き込んで利用する。車の利

日本カーシェアリング協会協会の吉沢武彦代表理事(32)は「仮設住宅でも導入に向けた準備が位でサークルをつくって進んでいる。もたれば、協会として車を仲介できる」と呼び掛ける。近隣の仮設住宅でも導入に向けた準備が位でサークルをつくって進んでいる。



仮設住宅で始まったカーシェアリングで使う乗車Ⅱ石巻市流留